

目 次

戦後葉たばこ生産政策史 下
政策形成に携わった人々

第五章 成長経済下の戦略図絵（一九五五～一九六八）

第一節 景気変動と国内原料構造	1
1、高度成長の要因と耕作概観 「経済大国」と葉たばこ需給	1
2、世界四位の生産と急激な衰退 “農村の地殻変動”と産地像	5
3、大型景気の波及と商品戦略 商品戦略に伴う「原料適応」	8
4、感慨深い臨時葉たばこ調査会の真価	12
第二節 劇的な民主化法制の創設	16
1、危機感を映す耕作界の陳情 余剰農産物にまつわる攻防	16
2、改正試案の対比と高い緊迫感 異常な熱気を帯びた耕作者大会	21
3、「鼓腹撃壊の民」とは無縁 アグレッシブな時潮の反撃	25
4、第三者視線と新法制の胎動 民主化法制の胎動へ矢を放つ	29
5、民主化改革法案の波状攻防 参議院法制局の先駆的なトライ 革新的な要望に対する公社の措置案	37
6、法人化の要綱試案と推進力素描 シンボルの誇示から闘う集団へ 戦前の源流に根差す「超党派」	47
7、耕作制度改正を巡る国会の攻防 平林議員による提案理由の説明 政府提案を足立政務次官が説明 法改正の政府提案が遅れた諸背景	55
8、三法案審議を巡る絶妙な議会史 淡々とした耕作組合法案の提案説明 国会幕切れの掉尾を飾る名配慮 組合法案が廃案を免れた衆議院 国会の節目に総裁と監理官が更迭 “檄”を飛ばした耕作団体の気迫	61
9、民主化法制に対する模索と協調 吳越同舟の建設的なコンセンサス 内藤小委員長らへ現地も緊急陳情 浅沼書記長が意見交換会をセット 耕作組合法案を巡る農協側の姿勢	69
第三節 法案審議の曲折と決着像	76
1、休会中の法案審議がスタート 凜然と質問の矢面に立つ気迫	76
2、内藤小委員会の熱気に満ちた船出	79
3、独禁法関連と組合の地域設定	82
4、集中審議の後半像と関連情勢	86
5、信頼感を築く参考人の歴史的陳述 半世紀に及ぶ苦衷と悲願の真情 万感の思いを込め双璧へ懇請 森山発言	88
6、トライアングル風の波長融合 “懇談会の合意”を中間報告	93
7、第二十八回国会が演じた起伏 内閣新提案を巡る欲求不満の渦 「襟を正す志」と「廃案の背景」	99
8、超党派を取り戻した終盤劇 同じ絆に根差す史的な合作	105
9、本会議が示す権威と連合審査 緊迫感に包まれた大詰めの舞台 相互理解を深めた連合審議会	111
10、修正の重みと附帯決議の意義 選良像を印象付ける金字塔	119
11、信認の祝砲と縁深き名宰相 国民から不動のコンフィデンスを 進歩派の独占批判をも消化	125
第四節 法制改革後の新展開	131

目次下.txt

1、昭和天皇の葉たばこ植物観	131
原料と食品工業のサイエンス	
生物学者の視座と国民への激励	
2、耕作審議会の発足と新組合誕生	134
新全国中央会を担う経営陣	
耕作組合の生い立ち雑感	
3、輸出面のガバナビリティー	139
葉たばこ輸出促進協議会の発足	
生産部門も輸出市場へ開眼	
公社OB議員が輸出に挑戦	
4、松隈總裁の葉たばこ農業観	144
年頭所信を素材に	
5、石田副總裁の誕生と布陣	147
西山部長から駿河体制へ	
村上監理官の更迭と人間像 “管鮑の交わり”	
6、「小型米審」の異名と始動	151
7、生産費補償方式への移行	153
審議会の波乱が示す啓発観	
8、阪田總裁の就任と農村社会の激動	158
計算機がついに「火を吹く」	
9、所得補償志向の研究を建議	161
毅然たる阪田總裁の決断	
第五節 所得補償方式の究明	168
1、調査会発足に先立つ意識改革	168
博学と慧眼 阪田總裁	
ルビコンの川を渡る	
2、万斛かつ不動の信望	172
建議はついに農政審へ届かず	
「則天去私」から「天空海闊」へ	
3、心耳を澄ますハーモニー	176
第十回耕作審議会 生産革新の起爆剤	
中立委員と耕作代表との確執	
小学生の作文『ぼくのゆめ』	
4、比較劣位化を防ぐ砦	182
商品生産の開花と「救世主」	
懇談会が独自の調査会を提唱	
5、公社も諮問機関設置を決断	186
“幻の名簿”と選考余話	
礼節を残しての終幕感	
6、臨時葉たばこ調査会の門出	190
淡泊一途な諮問書	
言論界も熱い視線を	
7、池田總理系譜のサポート像	198
明治へ遡及する質疑も	
8、委員七賢人の断片像	202
第六節 価格形成の新展開を示唆	207
1、真の時潮を掘り起こす	207
英知集約への意欲	
2、参考意見の聴取が急浮上	210
所得補償主張と新星の台頭	
財政専売も企業の論理も	
3、答申素案起草の作業点景	215
輸出振興検討への進展余話	
4、啓発感の色濃き答申書	218
答申書の「前文」	
5、答申の教訓と会長談話	225
真情のにじむ「会長談話」	
6、史的偉業の主体的な求心力	230
記念碑的な文献を思わす資料集	
受難期を跳ね返す良識観	
東畑会長と小倉主査の至情	
7、算式を巡る先行的な啓発性	235
調査会の見解を算式化	
8、阪田總裁の秀でた原料觀	239
人心を動かす知将哲学	
究極は商品新理念の確立	
本来優れた「貿易財」	
銀よりも高かった高級財	
不退転の“自主英断”“	

目次下.txt

産地モラルが一気に高揚	
海図なき未知への船出	
意表を突く革新戦略観	
9、碩学と経営者の共通項	246
重工業主体と軽工業主体（重厚型vs商才）	
対称图形が描く巨星像	
10、まとめ 史的展開と道標	249
農業恐慌と耕作への偏見	
葉たばこ人と創造的な破壊	
「鴻鵠の志」にも添う道筋	
連帯感と身近な宰相寸評	
エピローグ 「言外の意」に学ぶ	262
主要参考文献	266